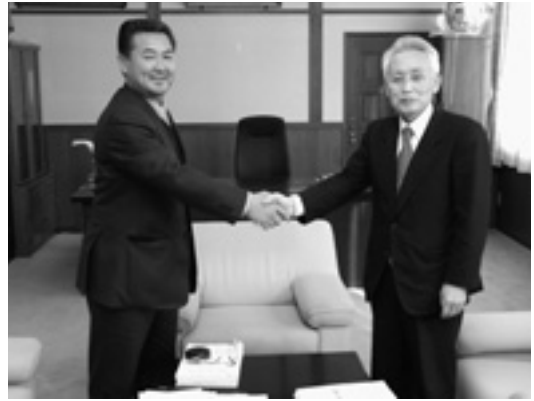


町長事務引継ぎ終わる 小沼さん100万円を町に寄附



新旧町長の事務引継ぎは12月18日に町長室でおこなわれ、終了後に二人は、しっかりと握手を交わしました。

同日、前町長の小沼昇さんは、町の「自然首都・只見」応援基金事業に100万円を寄附し、目黒町長に手渡しました。寄附金は、ブナを核としたまちづくり事業に使われます。

明和小上棟式



12月5日、明和小学校改築工事上棟式がおこなわれ、小沼昇町長ら工事関係者の他、明和小学校から内川敦子校長、山内孝志PTA会長、5・6年生児童が出席しました。餅まきには明和小の全校生が参加しました。

雨が降る中、6年生が元気に餅をまき、子どもたちは傘を差しながら、餅を拾っていました。

バス引渡し式・只高



只見高校の部活動遠征用バスが古くなったことから、町は新しいバスを高校に贈りました。バス引渡し式は12月11日、関係者が出席し、只見高校でおこなわれました。小沼昇町長から鈴木健司校長にバスの鍵が手渡され、生徒を代表し五十嵐春樹生徒会長がお礼の言葉を述べました。

科学実験講座



NPO法人「鐵の学校」主催の「船の科学実験講座」が、12月7日只見地区センターを会場におこなわれました。今年は、船の不思議について、身近にあるものを使用して実験しました。

参加した小中学生は、船の浮かぶ原理を学び、それを基にした実験を通して、科学への探究心を深めました。

50周年事業企画委員会が報告

テーマは「自然・人と人(君と僕) 共に歩もう只見町」



12月22日、町制施行50周年記念事業企画運営委員会の舟木和一委員長が、目黒吉久町長に委員会報告書を提出しました。

報告書は、記念事業の基本テーマを「自然・人と人(君と僕)共に歩もう只見町」とし、7つの記念事業を提案しています。また、町の誕生日である8月1日に記念式典を開催する提案がありました。町では報告書の内容にそった事業が実施できるように今後詳細な検討を進めていきます。

委員会は、婦人会、地区センター運営委員、まちづくり推進員のそれぞれの代表の方と、町職員の15人で、9月29日から4回にわたり会議を重ねてきました。

▼提案された記念事業名

- ①健康ただみフォレストセラピー大会
- ②町史とおきの話刊行事業
- ③子ども議員による「子ども議会」
- ④只見町からプロ野球選手を出そう!
- ⑤記念植樹事業
- ⑥只見誕生地域再発見・再認識
- ⑦ごはんまつり

町を再発見しよう



12月7日、只見婦人会は、只見の自然に学ぶ会の新国勇さんを講師に招き、ブナ林・要害山等の只見の自然を再発見しようと、勉強会を開きました。只見地区センターを会場に開かれた勉強会には、約30人が参加しました。

新国さんは、「只見には本物の森がある」と、スライドを使ってわかりやすく解説していました。

そば打ち講座



12月21日、只見地区センターでそば打ち講座が開催され、21人が参加しました。只見町そば部会の会員4人が講師となり、そば打ちの技を伝授しました。参加者からは「指導がわかりやすく、そばも大変おいしい」「地元の伝統料理をもっと知りたい」など大好評でした。そば打ちの技を次の世代へ。